

大阪錦繪新話

第六号

尾州豊橋札木町。因田大作とのふ者へ日頃邪見の  
其上、女房おせきと常々、非道よある不人情も  
あひことと評判と、とりつけ夜まよひんさ。二月三日の  
事多し。女房おせきと引きて。此頃午前のそつ  
で、女房おせきは相違ひ、白状し、いと責められて  
おせき、あふ身、覺、みささけ、いとも聞い、きど。  
慈悲もあさけ、内儀さ、柱は縛り、無法も。  
焼、ごとも、責め、おせきが、五、焼、た、道。  
すでは、命も、危、き、お、や、其、悪、事、が  
あ、ら、ま、て、忽、ち、大、作、へ、召、さ、し、き  
し、と、ど、ふ、仕、合、の、こ、お、せ、き、身、の

せめて、亭主へ、と、い、き  
と、若、め、い、し、と、い、か、わ、の  
そ、う、で、い、い、と、い、ま、  
せんり



略誌画圖 笹木 芳麓

阿波文叔 彫福三